

四国突破 新たな世界へ



県勢として初めてラグビーの高校選抜大会に出場した土佐塾。「全国1勝」に向け練習に励んでいる(高知市の同校グラウンド)

土佐塾高一ラグビー部

県勢初の全国選抜大会経験 中高一貫指導が奏功

このほど埼玉真で行われたラグビーの全国高校選抜大会に、土佐塾が高知県勢として初めて挑んだ。結果は3戦全敗だったが、選手らは「新しい世界を見ることができた。次は1勝を目指す」。新たな目標に向かって練習に励んでいる。(井上真一)

「攻めきる」決め手がない。間弱。全国の強豪に比べればなあ。夕日に染まった同校グラウンドに、西村保久監督(48)の声が響く。練習は2時。大体大を卒業した西村監督

が赴任した26年前、県内では安芸工(現桜ヶ丘)、高知商などにもラグビー部があり、7チームが県体に出場。その10年ほど前には、嶺北が県内の公式戦で84連勝を達成するなど盛り上がりを見せていた。ただ、全国大会では勝利がな

かった。

赴任当時、発足3年目の土佐塾は部員が20人ほどいたが「雨が降ったら集まらないとかね。県で優勝しても四国ではね返される。100年たつても勝てないんじゃないかと思うくらい」。県外強豪とレベルの差を感じたという。

四国予選を勝ち抜かなければならない選抜大会出場は同校、そして県勢の悲願だったと言っている。今回、四国の壁を破った要因について、西村監督は「中学からの一貫指導」を挙げる。

6年前までは西村監督が一人で中高を担当しており、指導の中心は高校だった。そこに元関大ラグビー部員で同大第一中での指導経験もある現中学顧問、山下陽平さん(30)が赴任。中学でも本格的に指導できる環境が整った。2年前には高校日本代表候補のバックスがいたが、現チームには特別に秀でた個人技

を持つ選手はいないという。しかし選抜大会出場が懸かった四国新人大会決勝では、前年敗れたつるぎ(徳島)を19-15で下した。FW戦では劣勢に立たされたが、FWとバックスが絡み合いながら、うまくゲームメイクしてくれた(西村監督。総合力で勝つ)。全員がラグビーを理解し、戦術を共有できていることの証しでもあった。

選手らも手応えを感じているように、新階彩幸主将は「6年間、同じ仲間と一緒にやれる。チーム力は上がっていると思う」。新階主将は3年生は、山下顧問が赴任当時に中学1年生だった世代だ。

新階主将は「四国でも全国でも、挑戦者の気持ちで戦う。西村監督も「6月の四国選手権で再び頂点を狙う。そのため安定した力を身に付ける」と意気込む。

その先に、県勢として5年、土佐塾としては18年もの間、遠ざかっている「全国1勝」が見えてくる。

全国高校ラグビー7人制あす県予選

春野

ラグビーの全国高校7人制大会県予選は23日、春野多目的広場で行われる。土佐塾、中央、高知工によるリーグ戦で、優勝校は全国大会(7月15〜18日・東京)に出場する。